



「給付型奨学金」の創設を求める意見書 に反対する 岐阜市議会 自民・公明・市民クなど

岐阜市議会9月議会に出された市議第17号議案「給付型奨学金の創設及び無利子奨学金の拡充を求める意見書」は無所属クラブが提出会派でしたが、自民、公明、市民クなどは反対。ところが、最近の国会報道では自民公明党政権自身が「給付型奨学金」創設への姿勢を強めているようです。

9月議会に「同趣旨と思われる意見書案を出していた」岐阜市議会公明党は協議に応えないまま、給付型奨学金の意見書を取り下げて、こともあろうか反対に回りました。なぜ、賛否が分かれたのか？ 理解に苦しみます。無所属クラブの意見書内容は以下の通りです。

- 1 奨学金や授業料免除などの支援を拡充し、2017年度に給付型奨学金を創設すること。
- 2 現行奨学金は2017年度に無利子化を目指すこと。
- 3 低所得世帯については、学力基準を撤廃すること。
- 4 現在の返還者の有利子奨学金の金利を下げ、返還月額が所得に連動する新所得連動返還型奨学金の制度設計を進め、既卒者への適用も行なうこと。

賛成会派 無所属クラブ 日本共産党市議団

日本国憲法公布70周年記念



2016 ぎふ 平和のつどい

11月3日(文化の日) 13:30~16:00 市民会館

講師 水島朝穂 みずしまあさほ 早稲田大学教授・憲法学

「日本国憲法の生命力～施行70周年の日に問う」

主催 2016ぎふ平和のつどい実行委員会 問い合わせ 090-2688-5284

連絡先 市会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

統廃合の結果としての小中一貫校？

岐阜市議会文教委員会視察、郡山・盛岡

市議会文教委員会は10月26～28日、福島県郡山市に小中一貫教育、岩手県盛岡市に「もりおか・城と城下町フィールドミュージアム」について視察させて頂きました。

小中一貫教育は議会質問も出されるようになりましたが、その教育方針、方法が優れているというよりも、少子化の過程で小学校の統廃合が進められ、その結果として、あるいは統廃合の方法論として「小中一貫校」が論じられていないか？と感じるところです。郡山市では3中学校の例を勉強しました。

郡山市立湖南小中学校は、バス通学となるほどの過疎化で小学校と中学校を統合し、小学校と中学校を同じ敷地内に建設。方式を選択したと言うより、「一貫」しかなかったと言えるのでは、と思います。授業時間の小中学校の調整、理科・社会・音楽など専門科目の中学教員配置など45ページの資料説明を受けました。「年齢ギャップによるイジメが心配」の声があったが、「運動会等での中学生はお兄さん、お姉さんを務め仲良く勉強出来ている」との説明を受けました。

明健中学の例は、マンモス校・生徒数1154人の分離にともない、中学校と同一敷地内の小学校と離れた小学校が出来、別敷地で「一貫」と言えるのか？不思議でした。中学教員の「授業移動が大変」との説明でした。

西田学園では、小学校5校統合の必要性から「小中一貫校」と。「中一ギャップの心配」の話もありましたが、「方式を目指して学校再編をする」との考え方ではないようでした。盛岡は無料ミュージアム(1F)に年23万人来館だが、有料(2F)に年6万人で悩んでいると。「無料にしたら」と質問をしたら、戸惑っておられました。次号に

11月12日 **過労死シンポジウム** 13時ハートG



松原のりかず
☎058-253-2500